令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　北区

学 校 名　大阪市立豊崎本庄小学校

学校長名　北埜　恵一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・大阪市立豊崎本庄小学校では、第６学年　56名

学校名　大阪市立豊崎本庄小学校

令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語科が64%、算数科が54%、理科が52%であった。大阪市平均と比較すると、国語科が１%、算数科は４%、理科が３%下回った。全国平均と比較すると国語科が2.8%、算数科は４%、理科が5.1%下回った。平均無回答率は、国語科が5.3%、算数科が7.3%、理科が5.3%であった。

児童質問紙では、児童の学習意欲に関する項目を見ると、概ねどの項目も、最も肯定的に回答する割合が全国平均より上回っている。また、生活習慣や学習に対する、家庭の意識の高さが読み取れた。学校での授業に関する項目についても最も肯定的に回答する割合が高いものが多くみられ、児童の学習への意識や意欲の高さが分かる結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］

全国平均と比較して、「A　話すこと・聞くこと」の区分において4.4ポイント、「C　読むこと」の区分において3.8ポイント上回っており、国語科の学習がおおむね習得できている。一方「B　書くこと」の区分において、全国平均を0.6ポイント下回っており、記述式の問題形式での無回答率の多さにも表れている。昨年度よりも改善はされているが、児童が自分の考えをまとめたり、読み取ったことを要約したりするなど、表現する機会を設け課題解決に取り組んでいる。

［算数］

全国平均と比較して、昨年度より改善は見られる点はあるが、どの区分においてもポイントは下回っており課題がみられる。基礎基本が身に付くような学習デザインや朝学や昼学を活用した学習の習慣をつけていくなど、課題解決に取り組んでいく必要がある。

［理科］

全国平均と比較して、どの区分においてもポイントは下回っており課題がみられる。特に、短答式、記述式の回答に課題が見られる。自分の考えを、理科的な見方・考え方で表現することができるように取り組みを進めていく必要がある。

質問調査より

「早寝・早起き・朝ごはん」といった、児童が学びに向かうための基本的な生活習慣については、最も肯定的な回答をする児童の割合が高かった。また、計画的に家庭学習を行い、しっかりと学習時間を取っている児童が多い状況から、落ち着いた環境で生活していることが読み取れた。今後は学習者用端末を活用した家庭学習の取り組みを進めていく必要がある。

学習意欲については、読書や各教科の授業が「好き」と肯定的に答える児童が多く、学習に対する意識や意欲が高いという実態が見られた。

授業については、自分の考えをまとめたり、振り返りを行ったりしながら主体的に取り組んでいるという実態が明らかになった。また、話し合い活動に関する項目について最も肯定的に回答する割合も高かった。児童が主体的に学習に取り組み、対話を伴った共同的な学習に取り組むことができていることがうかがえる。

学校生活については、全国・大阪府と比較すると、「学校に行くのは楽しい」「自分には良いところがある」といった項目で最も肯定的な回答が高く、自他を大切にすることで、学校生活を充実して過ごすことができていることがうかがえる。

今後の取組(アクションプラン)

国語科では、資料をもとに自らの考えを表現する場を多く設定したり、文章の要約や構造分析に取り組んだりすることで、児童の「書くこと」に関する資質・能力の向上をめざす

組んだりすることで、児童の「書くこと」に関する資質・能力の向上をめざす。
　算数科では、基礎基本となる知識の習得をベースに、学習に対して目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるように、授業のデザインを考える。自分の考えを様々な形で表現する場面を設定することで、粘り強く論理的に思考する資質・能力の向上をめざす。
　理科では、主体性を生かしながら、用語や器具の使い方などの知識・理解をしっかり定着させ、自分の考えを理科的な見方・考え方で表現することができるような児童の資質・能力の向上をめざす。
　学校全体で、子どもの自己決定を尊重する場の設定を手立てとした、「学ぶ側の論理」を大切にした授業づくりをめざし、研修会や研究討議会を実施して児童の資質・能力を高めることができるよう取組を進めていく。また、学力向上支援チーム事業を活用したり、スクールアドバイザーと連携したりして、若手教員の指導力向上に努める。
　学校生活においては、自分や他者を大切にできるよさをこれからも維持しつつ、学習活動の場においては、探究的な学びを中心とした、児童が主体的・協働的に学ぶ場面を確保し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現をめざす。